

生ごみの減量・再資源化施策に関する市民説明会 概要

【神科・豊殿地域】

1 開催概要

開催日時		令和 6 年 1 1 月 7 （木） 18:30～19:45
開催場所		上野が丘公民館 多目的ホール
出席者	市民	3 8 名
	行政（市職員）	環境部長、ごみ減量企画室職員 4 名 資源循環型施設建設関連事業課職員 1 名
	報道関係	1 社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	臭気	他自治体の堆肥化施設において臭気は問題となっていないか。	各施設を見学したが、建屋の外では臭わないよう対策をしており、臭気の苦情もないと聞いている。
2	収集範囲	神科地域はアパートも多いが分別収集範囲に含まれていないのはなぜか。生ごみの分別は市全体で取り組むべきだと思う。	全市民を対象とすると施設も大きくなりコストがかかるため、自己処理が可能な地域は対象外とさせていただいた。
3	ごみの出し方	神科地域は分別収集の対象外であるが、施設が稼働したらごみの出し方が何か変わるのか。	ごみの出し方は変わらないが、生ごみはなるべく自己処理に努めていただきたい。
4		通常の生ごみと生ごみ処理機で乾燥した生ごみは、どちらも生ごみ袋で出すのか。	どちらも生ごみ袋に入れてよい。生ごみを入れる場合は、ひと絞りにして水分を切ってから入れていただきたい。
5		生ごみ以外の違反物が混入していた場合、収集はされるのか。	腐敗による悪臭の影響もあるため収集は行うが、注意喚起の啓発は行ってまいりたい。
6	収集車両	可燃ごみと生ごみで収集車両は別か。	搬入先や運搬ルートが異なるため別の車両で収集する。

7	堆肥	機械で異物が完全に除去できるのか心配があるが、本当に良い堆肥を作るというプライドを持って取り組んでほしい。	生ごみと異物を分離する破除袋機を見学したが、かなり高い精度で分離できることを確認している。異物の混入率や堆肥の成分については基準値を設けて、その性能を確保できる事業者を選定していく。
8		牛ふんはどこからどの位の費用で調達するのか。	建設予定地の隣に牛舎があるため、そこから調達を行う。価格は調整中であるが、3トン車で700円程度を想定している。
9	目標設定	・将来世代にどういった環境を残すのか重要な分岐点であると感じている。ごみ量の数値目標だけでなく、どのような社会を目指していくのか具体的なビジョンを見える化してほしい。 ・この地域でこれだけごみが減ったから〇〇が良くなったなど、目的が達成されたのが分かる指標を立ててほしい。	・ごみの減量はSDGsや地球温暖化抑制に繋がっていくものと考えている。 ・ご検討させていただく。
10	減量化機器補助金	補助金申請者にはアンケート調査を実施しているが、その結果が活かされているのか。また、皆さん継続してごみの減量に取り組んでいるのか。	購入1年後を目途にアンケート調査を実施しているが、約1割の方が使用を止めている結果となっている。折込チラシの影響により製品を確認せずに購入する方もいたため、今年度からは市内販売店からの購入に限定し、現物を見てから購入を検討するよう制度を変更した。

11	資源循環型施設	・現在の可燃ごみ量（約3万2千トン）と新たな焼却施設の規模（144トン/日）の繋がりが分からない。 ・現在のクリーンセンターは老朽化に伴うメンテナンスで1炉運転が主であるということだが、新たなクリーンセンターも老朽化して1炉運転となった場合はごみが処理しきれないのではないかと懸念されている。	・144トン/日は広域連合全体の受入量であるが、内訳は、132トン/日が可燃ごみの受入量で、残り12トンは災害廃棄物として見込んでいる。 132トン/日を年間受入量に換算すると、設備のメンテナンス等を考慮して、約3万5千トンとなる。現在は広域連合全体で約3万7千トンのため、更に約2千トンの減量が必要な状況である。上田市だけで見ると、現在3万2千トンの可燃ごみを令和7年度に3万トンまで減らすことで144トン/日が達成できる。 ・20年後を目安に設備の更新や修繕を行い、長期間安定的に稼働できるよう計画している。
12	その他	集積所のごみ当番や費用負担は自治会で行っているのに、自治会に入っていない人も集積所にごみを出す。違反ごみを出すのは、自治会に入っていない方が多いので、市で対策してほしい。	自治会連合会役員会からも同様の意見があり、市でも対策を検討してまいりたい。